

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名 (ユニット名)	NPO法人信貴山やすらぎ会 グループホームやすらぎ
所在地 (県・市町村名)	奈良県生駒郡平群町信貴山2303-7
記入者名 (管理者)	島田 裕子
記入日	平成 21 年 8 月 21 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	住み慣れた自然豊かな環境で社会的な生活を維持しながら、健康で楽しく安心できる、もうひとつの我が家であるよう自立支援に取り組むホームの理念がある。	○ 職員が周知し日頃から意識してもらうようスタッフルームにも掲示している。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	利用者にとってもうひとつの我が家であり、家族にとっても同様であるように気軽に訪問いただき家族の団欒が図れるよう取り組んでいる。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	基本理念をパンフレットや施設内に掲示している。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	寺院につながる道沿いに旅館を改修したホームは自然に囲まれた環境に立地し近隣付近は歴史的観光名所である。利用者が散歩の際などは隣近所とあいさつを交わしている。	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の季節行事には都度参加させていただき、子供会の獅子舞や節分祭などは施設内にも来訪の協力を得ている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	近隣住民で健康不安や急を要する事態があればバイタルの測定や救急車の手配など協力する旨自治会を通して伝えている。	○	面会に来る利用者の配偶者や兄弟も高齢者である為、利用者と過ごす時間を一緒にカラオケなど参加して楽しんでいただくよう努めている。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価を努力目標としてよりよい施設づくりに活かしている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自治会集会の場を借り行いホームの取り組んでいる状況を説明した上で近隣住民からの要望など話し合い改善に取り組んでいる。	○	認知症介護への理解の普及と近隣住民の要望に添えるよう取り組みたい
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村担当者と連絡し事業所が提供するサービスの向上につながる相談を進めている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	必要時に応じて弁護士に相談する。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者が介護現場や利用者の様子を観察し、乱暴で軽率な介護を行っていないか介護者の動向を常時視察している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)		(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前の相談を受けた時点で概要説明し、契約に際しては重要事項説明書に添って、納得、理解いただいた上の契約に努め、解約に際しては事前の相談を受け協力を図る。	○	不明な点があれば契約、解約以後も対応している。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見、不満、苦情がある都度管理者が対応し、家族に相談している。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の健康状態を個々に合わせて面会時や電話で報告している。暮らしの様子が判るよう毎月写真を送り、要望に応じ個人記録を基に確認してもらう。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の意見、不満、苦情を耳にした職員は即時管理者へ報告し解決にむけて話し合うように努めている。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の朝礼を行い職員の意見・提案内容を検討し、再度常勤職員と話し合い介護現場に反映するよう努めている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	日中は4名以上の介護者を配置し、急な受診や欠員のないよう調整している。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	長く勤務している管理職員が日頃から介護に係わり、離職者があることでの利用者の心情の変化を察知し対応している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	常勤職員に対し公的に案内がある認知症に係る研修は受講を受けるようにしている。	○	正職員に限るが、より良い介護方法を勉強する機会として他のグループホームへ出向し見学や実務研修を行う場を設けている。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人傘下の居宅サービス事業所との連携を図り地域の事業者の活動情報など知り得ている。また交流のあるグループホームと日頃から介護支援に関する事例などの話し合いを参考にサービスの向上を考察している。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	スタッフルームを設け職員の休憩の場としている。季節行事に力を入れ職員同士協力して行事を盛り上げ親睦が深まる中でストレスの軽減につながる場合がある。	○	新年会を行っているが、職員同士の親睦を深める機会を更に増やしたい。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	各自が担当する職務内容を明白にし向上心や自発性を重視した勤務状況の把握に努め、場合によっては諸手当を設定し反映するようにしている。	○	昇給、賞与に際し担当職務に関して各自が自己評価した内容を算定の参考に考慮したい。
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前に情報を知り得る為に本人との面談の他、家族に生活歴などを事前調査書として記入を協力いただき具体的な援助方法に反映している。職員はゆったり接する時間があり、潜在的な能力や思いを職員全員で模索するようプランを立て実行している。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	在宅介護が出来ない状況や心情を踏まえより良い解決につながるよう考慮している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族の要望を加味しながら、より適した受けることのできるサービスは無いか思索し、他施設でも受けることのできるサービス内容を説明案内している。	○	本人や家族の要望と合致しない場合は居宅サービス事業所に相談している。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	状況に因り、本人の入居前の見学を勧めている。家族の宿泊も可能なため協力いただければ利用者の不安軽減につながる。	○	共用型の認知症通所介護及び短期入所者生活介護事業所の設置を目指す。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	認知症であっても人生経験が豊富で、尊重すべき年長者であることを職員へ常々指導している。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族の思い出話の中から現在出現している認知症状の理由と合致することがあり利用者の元気な頃の様子が伺え家族の思いをくみ取ることができる。家族の記憶の中に元来の利用者の姿が有より良い介護を提供する具体的な方法につながることもある。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族の心配が少しでも軽減できるよう、季節の行事参加を呼びかけ利用者と一緒に楽しんでいただく機会を設けるなど支援している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の馴染みの人の存在を理解し必要であれば職員を介して交流を手伝う場合がある。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	日中は居室で独りにしないで広間に集まって過ごしていただき利用者同士の関わりの様子を観察している。テーブル席も配慮し必要に応じて変更して毎日のレクリエーションを通し利用者同士気の合う関係作りを図っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	家族の意向により退居後も連絡を取っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	社会生活を維持できるように自立支援するのを前提に暮らし方の希望を家族と相談している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族から生活歴に関する情報を得る他関わりのあった介護職員や介護支援専門員などからも情報を得よう努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	利用者個々の観察を記録して職員が理解している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者、家族の意向を基に医師の指示する内容を含め職員間で検討し介護計画を作成している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	現状に適した介護計画の作成に努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日各職員が記入する諸種の様式を用い個別に記録している内容を担当が随時確認し介護計画の変更に反映させている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	日用品などの買い物の代行や通院の送迎や付添いを行い支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	所轄の関係機関の指導や支援を受けている。施設内の掃除、季節行事参加や手伝いなどの個人ボランティアの協力を得ている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	家族、本人との相談の上要望があれば対応する。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している			
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	従前からかかりつけ医があれば可能な限り受診支援を行っている。各診療科への受診の必要に応じ都度家族に連絡して承諾を得ている。	○	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	○	服薬に頼らない認知症の進行緩和につながる具体的な支援方法を重視した協力いただける専門医を探している。
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	○	看護師は近隣在住で緊急時は連絡が取れるようにしている。
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	丁寧な声かけを心掛け年長者の尊厳を守るよう努めている。個人記録などは所定の場所に置き、閲覧は家族のみに限る。職員の雇用契約時、退社後も尚守秘義務を誓約する書面を交わしている。	○ 排泄について職員の業務連絡事項がつい大きい声になることがあり十分配慮し控えるよう徹底したい。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	普段の会話の中から利用者の要望をくみ取り、個々に応じて納得していただけるよう説明し自己の決定内容を確認しながら支援できるよう努めている。	○ 介護への抵抗、拒否がある時、利用者が希望するタイミングなどを記してもらおう用紙など作成し工夫している。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	見守りを重視し、個々の暮らしのペースを把握しながら安全を確認するよう努めている。	○ 利用者の潜在的にできることやしたいことを、普段から職員全員が意識してくみ取り、支援すべき事柄の具体化を率先して立案できるチームケアの推進を図りたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	広間に鏡台を置き、身だしなみを意識していただける。3か月に1回訪問の美容院による散髪があり希望者に実施。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の掃除や盛り付けを利用者に手伝っていただいている。メニュー作りの参考に食材の扱い方や調理方法を尋ねたり、下膳の手伝いを一緒に行っている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	喫煙は居室以外で所定場所のみ可能でその都度にライターとともに手渡し喫煙してもらい喫煙後はライター、灰皿を預かるようにしている。飲酒の希望者は今までない。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄の失敗を軽減するため、排泄時間を記録し個別に事前のタイミングを図り声かけ、誘導を行っている。	○	日中は紙おむつの使用を控え尿取りパッドと紙パンツで対応するよう努めている。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	希望があれば、体調により毎日の入浴に対応し、時間の制限なくゆったりと個別に入浴を楽しんでいただける支援に努めている。	○	生活の自立の様子から判断して、夕食後の入浴希望者があれば対応できる。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	消灯、起床時間を定めず個別のタイミングで対応し夜間は眠剤の服用に頼らないよう支援している。個々の居室の他共有スペースにも簡易ベッドを用意し居心地良く安心できる所で休んでいただける。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活歴など家族から聞き出し興味のある事を続けていけるよう支援に努めている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	居室内での金銭所持を断っている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	気候の良い季節は毎日2~4名、近隣への散歩を援助している。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	家族の同伴の外出、外出ができる。	○	外泊、外出の場合、事前連絡いただきその時に合わせて体調の様子を含め準備を援助している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族の要望、協力があり、利用者が必要とすれば電話の支援可能。絵葉書など常備していつでも書いてもらえるよう準備はしている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	時間に制限なくいつでも面会可能。居室の広さを利用して家族や友人の宿泊もできる。居室の管理や掃除は毎日行い、寝具交換は汚れの都度と定期に週1回行って、いつでも居心地良く暮らせる支援をしている。	○	月に数回家族が宿泊されることが有、食事代のみ実費負担いただいている。
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束が必要なやむを得ない事態を除いて、日常の暮らしに身体拘束を強いることはない。管理者が介護現場を常時見て確認し、容易に身体拘束が起こらないよう取り組んでいる。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室に施錠はなく、日中玄関に施錠していない。建物の構造上目の届きにくい勝手口や物置にだけ簡易の掛金をしている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	施設内が広いので夜間は廊下の2か所設置のカメラからモニター確認し、日中でも目の届きにくい1か所にセンサーチャイム設置し所在確認する。また必要に応じセンサーやナースコールを増設している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	家族と相談し他の利用者のことも配慮して事務所にて使用の都度預かりを協力願う場合がある。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	夜間の巡視や見守りを重視しているので、転倒事故による骨折などの大事には至っていない。普段から職員が利用者個々の健康や精神状態を観察し未然の事故防止を図っている。災害の対策には防火管理者を定め講習受講している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	急変や事故発生に備え、日頃から職員に事前の予防策や起こりうる可能性を伝え、主に看護師、管理者が応急の処置を行っている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	近隣住民を交えての防災訓練は行ったことがないが、所轄の消防機関の指導のもと防火計画を立てている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	起こり得るリスクについては事前に話し合い納得していただく。体調の変化に伴ってその都度、医師、看護職員の意見を求め職員全員で話し合っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	個々に血圧・体温・酸素飽和度の測定時間を定め早期に体調の変化を伝達し、必要に応じて医師、看護師に相談し対応している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の変更の都度、病診記録に記載し確認する旨申し送りが有る。副作用等の詳細事項は各自が確認できるように所定の棚に置いている。服用変更時は測定回数を増やし観察し医師に報告する。薬の管理は管理者か看護師が行い責任の所在を明白にしている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘の状況を把握できるように排泄記録表を活用。頓用の下剤薬追加内容等を毎日申送り確認する。日頃の食事は野菜を多く摂取できるメニュー作りを心がけ水分摂取の機会を多くするように努めている。	○	主治医の勧めで便秘の予防に朝食メニューに寒天やヨーグルトを用い、おやつにところてん等緩下剤だけに頼らない工夫を再度実施する。便秘時の排便後血圧低下に因る意識喪失の可能性がある利用者について考慮して対応している。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎週の歯科往診の都度個々の状態を記録し、指示に従い自立の状況に配慮し口腔ケアの支援・介助を毎食後実施するように努めている。又歯科衛生士から口腔ケア時の介助の仕方について職員に指導の協力をいただいている。	○	口腔ケア実施状況や義歯の装着の様子、食事摂取量等など個々の状態を報告し、認知症状により、必要であればくりかえし歯科医師から説明してもらおうなどの協力をお願いしている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	嚥下、口腔内の状態によっては、きざみ・ミキサー食、水分のとりみ調整に対応。摂取量を記録し体重の増減や体調を医師に報告し、食事制限内容など指示に従い個々に調理に手を加えるよう努めている。飲水の機会を多くし随時飲みたい時に飲めるようにしている。	○	嚥下状態が悪い利用者の為に見た目にも、より美味しくなる工夫
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症マニュアルや随時職員への情報提示と予防の為手洗い・消毒の徹底を心掛けている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材は毎日購入し、器具や布巾の清潔や消毒を毎日行っている。	○	利用者に直接的には食前にテーブルを消毒剤で拭き、手拭きタオルを手渡すようにしている。又居室に持ち込みの食べ物の有無を随時確認している。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周りに植物を置き利用者が鉢の手入れや玄関先の掃き掃除の手伝いをしながら近隣住民や行き交う人に声かけるなどコミュニケーションを図って頂けるよう配慮している。	○	以前は犬をつなぎ玄関を開放してたが、利用者の精神状態を見計らって玄関を開放できる状況を増やしたい。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関・広間などに季節の花や植木を置き、家庭的で居心地の良い空間作りを心掛けている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事の時以外は、広間・リビングにソファを多く設け、又勝手口前などにも椅子を置き思い思いに過ごすよう配慮している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具家電などの持ち込みが出来る十分な広さがあり、家族と相談し可能な限り協力をお願いしている。	○	テレビ地上デジタル放送に切り替えの対応
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	各箇所に温度・湿度計を設置し外気温度により調整し、換気に努めている。各居室、広間、リビングに冷暖房機を設置おり、建物の構造や環境から極度に乾燥状態になることがない。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	旅館として建てられた建物であるが、廊下など要所に手すり・滑り止めを設け、今まで転倒で骨折に至る事故がない。施設の備品に歩行器、車椅子があり必要時には利用が可能。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	各居室に表札を取り付け共有で使用する要所(トイレや浴室)に場所の表示をしている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	気候の良い時期はベランダで日光浴を毎日の日課とし、広間の広さを活かしボール運動など行っている。又駐車場の一角に菜園を設けている。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている		①ほぼ全ての家族と
		○	②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

自然に囲まれた環境で、ホーム内には50畳の広間に集い毎日カラオケなどを楽しみ、思い思いに合わせたゆったりとした暮らしを支援しています。個別に健康状態の確認を随時行い各診療所の往診協力により健康維持、増進を図っています。地元で採れた野菜を中心に、お年寄りに優しい食事作りに取り組み、小さな菜園も設けていますので収穫した野菜を味わうこともできます。気候の良い季節には毎日散歩を実施し、地域の祭事参加やホームの行事には家族様をお招きして職員一同で盛り上げ、利用者がより豊かな社会生活が送れるよう自立支援に取り組んでいます。